

詩篇 25 公同礼拝は祈りによって守られる

今日は、また別の詩篇から、主に神について、また公同礼拝において私たちがどのように神を礼拝するのかについてを見ていきたいと思えます。今日お読みする詩篇は25篇です。これは、私たちの人生における神の導きを祈った美しい詩篇です。少し不完全な折句を入れた詩の形式をとっています。つまり、原文のヘブライ語では、各行の頭にヘブライ語のアルファベットが一字ずつ読み入れられています。ですが、2つの文字が飛ばされていて、同じ文字が2つの節で用いられているので完全な折句を入れた詩ではありません。ですが、神の導きを求めるこの祈りは、私たちの人生において、また教会において、祈りが占める場所について教えてください。「ダビデによる」と始まりますので、再びこれがダビデによる詩篇であることが分かります。今回は、この詩篇が書かれた状況について他に情報はありますが、その状況はこの祈りの内容ほど重要ではありません。この詩篇は分割して読むのに適さないなので、まずはそのすべてを読みしたいと思います。

「1 主よ あなたを わがたましいは仰ぎ求めます。 2 わが神 あなたに 私は信頼いたします。どうか私が恥を見ないように 敵が私に勝ち誇らないようにしてください。 3 まことにあなたを待ち望む者がだれも恥を見ず ゆえなく裏切る者が 恥を見ますように。 4 主よ あなたの道を私に知らせ あなたの進む道を私に教えてください。 5 あなたの真理に私を導き 教えてください。あなたこそ 私の救いの神 私は あなたを一日中待ち望みます。 6 主よ 思い起こしてください。あなたのあわれみと恵みを。それらは とこしえからのものです。 7 私の若いころの罪や背きを 思い起こさないでください。あなたの恵みによって 私を覚えていてください。主よ あなたのいつくしみのゆえに。 8 主は いつくしみ深く正しくあられます。それゆえ 罪人に道をお教えになります。 9 主は 貧しい者を正義に歩ませ 貧しい者にご自分の道をお教えになります。 10 主の道はみな恵みとまことです。主の契約とさとしを守る者には。 11 主よ あなたの御名のゆえに 私の咎をお赦してください。それは大きいのです。 12 主を恐れる人は だれか。主はその人に選ぶべき道をお教えになる。 13 その人のたましいは 幸せの中に宿り その子孫は地を受け継ぐ。 14 主は ご自分を恐れる者と親しく交わり その契約を彼らにお知らせになる。 15 私の目はいつも 主に向かう。主が私の足を畏から引き出してくださるから。 16 私に御顔を向け 私をあわれんでください。私はひとり 苦しんでいます。 17 私の心の苦しみが大きくなりました。どうか この苦悩から私を引き出してください。 18 私の悩みと労苦を見て 私のすべての罪を赦してください。 19 ご覧ください。私の敵がどんなに多いかを。彼らは不当な憎しみで 私を憎んでいます。 20 私のたましいを守り 私を救い出してください。私が恥を見ないようにしてください。私はあなたに身を避けます。 21 誠実で直ぐな心で 私が保たれますように。私はあなたを待ち望んでいますから。 22 神よ イスラエルを そのすべての苦難から贖い出してください。」

この詩篇が求めている様々な神の導きに注目してほしいと思えます。4節には、「主よ あなたの道を私に知らせ あなたの進む道を私に教えてください。」とあります。道は私たちがどのように歩むかを示す言葉ですが、ここでは、あなたの道、あなたの進む道を教えてくださいと神に求めています。そしてその後、5節では「あなたの真理に私を導き 教えてください。」とあります。ここでダビデは特別に神の導きを求めています。神の道、神の進む道を教えるとは、真理への導きです。私たちが神の導きを求めるとき、それは真理、特に神の真理を理解するようになるためのみ教えの過程を求めるのです。神の道とはこの世において真理への唯一絶対の道なのです。この世には「真理」だと言われる様々なものが存在します。最近では、誰もが自分なりの真理を持っていると言われます。あなたには「あなたの真理」、私には「私の真理」があります。ですが、「私の真理」、つまり私のこの世についての理解は、自分の経験に基づく知恵へと導いてくれるかも知れませんが、神の真理とは全く異なります。「あなたの真理」と「私の真理」がある一方で「唯一の真理」があります。本当の真理、絶対的な真理の唯一の源は、神のみ言葉に啓示された神です。

そして12節では、神がご自分の道を示してくださることについて別の記載があります。そこでは「主を恐れる人」に導きが与えられています。また14節では主を恐れる人について驚くべきことが記されています。そこには「主はご自分を恐れる者と親しく交わり その契約を彼らにお知らせになる。」とあります。主を恐れることが神の道を理解すること、つまり神の導きに与ることだけでなく、神との親しい交わりももたらすというのです。これは驚くべきことです。神の御心と道を知ろうと、その導きを求めるとき、人との間にあるどんな友情よりも真実で素晴らしい友を私たちが得ていることに気づくのです。箴言18:24は「多くの友に関わる人は身を滅ぼす。しかし、兄弟以上に親密な友人もいる。」と言います。ヨハネの福音書15:15で、イエスは従う者たちに「15 わたしはもう、あなたがたをしもべとは呼びません。しもべなら主人が何をするのか知らないからです。わたしはあなたがたを友と呼びました。父から聞いたことをすべて、あなたがたには知らせたからです。」と言われました。父なる神と私たちの関係は、子なる神であるイエス・キリストを通して築かれます。罪を悔い改め、神の赦しを求めるとき、私たちは神の息子や娘として神の家族に養子として迎え入れられ、イエスの友とされるのです。ですがそれは、へりくだり、罪を悔い改め、神の導きに従い求めること、つまり、イエスを主とし、救い主として従うことに基づいてです。

罪を悔い改めることは私たちの祈りの主要な部分であるべきです。8節、9節に戻りますと、神の「道」は罪人と貧しい者のどちらにも教えられていることが分かります。つまり、神の慈しみと恵みゆえに、神の導きは誰にでも与えられるということです。8節は「主はいつくしみ深く正しくあられます。」と神の慈しみを覚えることから始まっています。それは罪人さえも真理へ導こうとされ、慈しみを示される神の働きです。ですが、7節にもあるように、罪人たちが悔い改めなければ、つまり8節で述べられているように、貧しい者とならなければ、罪の赦しという神の恵みを経験することはありません。7節は「7 私の若いころの罪や背きを 思い起こさないでください。あなたの恵みによって私を覚えていてください。主よ あなたのいつくしみのゆえに。」と、この悔い改めについて語っています。この祈りを通して、悔い改めの心からくる、へりくだって神に頼る姿を見ることが出来ます。罪の告白と悔い改めは、祈りの核となるものです。この詩篇は折句を入れた詩であると言いましたが、この祈りの中心となる考えが11節の真ん中にあることを示すもう一つの文学的、詩的な構造をここに見ることが出来ます。11節は「主よ あなたの御名のゆえに 私の咎をお赦しください。それは大きいのです。」とあります。告白は私たちの祈りにおいて重要な要素です。

神の御前に進み出ることを恵み深く許してくださる聖い神の前に、自分の罪を認める謙遜さが無ければ、神が絶対に必要だということを見失い、私たちの祈りは自己中心的なものとなってしまいます。自分たちの必要に基づく執り成しの祈りではなく、取引的な祈りになってしまいます。つまり、十分に祈りさえすれば、私たちの信仰と一生懸命さに基づいて神が神が答えてくださると考えてしまいます。ですが、祈りにそのような考え方をもち込むべきではありません。私たちはキリストに在る救い、つまり恵みゆえに神に近づくのです。祈りにでさえ、私たちには何も携えていけないことを知りつつ神のもとへ行きます。神が私たちに応えてくださるに値するのに十分な信仰も真剣さも、私たちの言葉や願いの中にはありません。ただ、あらゆる祈り、賛美、告白、とりなし、身体的なことやその他の必要に関する願い、また神が私たちに与えてくださるすべてへの感謝、それらすべてが神の栄光を追い求める方法方法なのです。祈りとは神の栄光を追い求めることです。礼拝の究極の目的は神の栄光であり、祈りは神の栄光を求める第一の方法であるとお伝えしましたのを覚えておられるでしょうか。ヨハネの福音書14:13は、私たちの必要を神にどのように求めるのかということについての真理を示してくれます。「またわたしは、あなたがたがわたしの名によって求めることは、何でもそれをしてあげます。父が子によって栄光をお受けになるためです。」ですから、祈りの中で神に物事を求めることは間違いではありません。実際、それは神に栄光を帰すものであり、私たちの人生におけるイエス・キリストの栄光を示すものであります。私利私欲や貪欲から求める間違った願いもあります。ヤコブの手紙4:3は「求めても得られないのは、自分の快樂のために使おうと、悪い動機で求めるからです。」と言

っています。ですが、神の御心に適うことを神に求めることは、神に栄光を帰すこととなります。私たちが神の御心であると確信できることとは何でしょう。それは教会において互いを愛し、思いやることです。イエスはヨハネの福音書 13:35 で「互いの間に愛があるなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるようになります。」と言われました。ですから、互いへの愛ゆえ、神の栄光を求める中で、神の御座の前に私たちの必要を、祈りを持って捧げるのです。

そのような願いと神の前に必要を求める姿が、まさにこの詩篇の 16-20 節に見られることです。16 節には彼の孤独と苦悩について神の恵みを求める祈りがあります。詩篇の作者であるダビデは、サウル王から逃れ、多くの人々から拒絶される中、孤独の意味をよく知っていました。サウル王から命を狙われる中、苦悩の意味を知っていました。それらが彼に大きな精神的な苦痛をもたらしました。17 節で「私の心の苦しみが大きくなりました。」と言っているのはそのためです。ですから 17 節ではこの苦悩から引き出してくださることを求めています。けれど、この救いを求める祈りも、自分に敵対する者らの罪だけでなく、彼自身の罪を認めることから始まっています。18 節で「私の悩みと労苦を見て」と言った後に「私のすべての罪を赦してください。」と言っています。結局のところ、神の介入を求めるこれらの願いは、ダビデの信仰や彼自身の功績によるものではなく、神とダビデとの関係に基づくものです。それを 20 節の終わりにみることができます。「20 私のたましいを守り 私を救い出してください。私が恥を見ないようにしてください。私はあなたに身を避けます。」信仰の度合いによって祈りが効果的だったりそうでなかったりすると言う人は、祈りについて大きな誤解をしています。祈りとは、凍った湖でアイススケートをするようなものです。湖の真ん中まで氷の上を進み、何も心配せずに自由に滑ることができる人がいる一方、湖が完全に凍っていない可能性を恐れて、とても慎重に恐る恐る湖の上を進む人もいます。私たちの信仰もそのようなものです。湖の上を恐れることなくアイススケートする人のように、心配することなく神を信頼する人がいます。一方で、氷を突き破って水に落ちることを恐れ、水際から離れることなく注意深い人のように見える信仰を持った人もいます。ですが、信仰が大きかろうと小さかろうと、両者を支えている氷の厚みは同じです。その氷と同じく、私たちの神はすべての祝福と力の源です。最終的に何をなさるか決定されるのは神です。そして、その決断は私たちの信仰に基づいて決められるのではなく、神の御心と神がすべてを成すお方、全てを成すことができる存在であることに基づくものです。

ですから、皆さんが神は自分の信仰が弱いから、自分の祈りに神が答えておられないように思えるから、神は自分の声に耳を傾けておられないのではないかと思い、人生において困難の中におられるなら、神は皆さんの信仰に基づいて答えておられるのではないということを断言したいと思います。何が最もご自身の栄光を示し、あなたに最善となるかという神の主権的な決定に基づいて、神はあなたに応えられ、あるいはあなたが望む答えを与えずにおかれるのです。ですが、待つときがあること、待ち望む時があること、涙で前が見づらくても神の恵みと善を信じるときがあることを受け入れることは、私たちにとってとても難しいことです。ですから、ダビデは彼の祈りを 21-22 節にある「21 誠実で直ぐな心で 私が保たれますように。私はあなたを待ち望んでいますから。22 神よ イスラエルを そのすべての苦難から贖い出してください。」ということばで締めくくっています。ダビデには他に頼るあてもなく、ただ神の誠実で直ぐな心を探求しています。つまり、この状況における神の介入を待ちつつ、神の義そして、神の栄光と私たちの益のための完全なご計画が、彼を支え、あるいは保ってくれるように求めたのです。「Desiring God」の中でジョン・パイパーは「祈りとは神を待ち望むという欠くことのできない活動である」と述べています。私たちは皆、自分の人生において、また教会として、神のご計画が明らかにされることを待ちのぞむ状況を抱えています。そして多くの場合、待ちきれなくなると、祈らずに前に進んでしまったり、望む時、望む結果が得られないことにイライラしたり怒ったりするのです。神に心の内をさらけ出し、祈りの中で神の御座の前に必要のすべてを差し出すことは、私たちにとって神を待ち望む心を示す術です。そのような祈りをささげるとき、私たちは自分がいかに神に頼らざるを得ない存在であることかを覚えます。それは、私たち自身や私たちの必要

から神のご性質と私たちの必要を満たす神の力に目を移し、さらにはいつ、どのようにして成されるのかについての神の主権に目を向けることです。そうすることで、自分の個人的な必要についての心配が和らぐどころか、他の人の必要について心配するようになります。それが、この詩篇の終わりに私たちが目の当たりにする点です。ダビデの思いは22節にあるように、「私が保たれますように」、「私は待ちのぞみます」というものから、「神よ イスラエルを そのすべての苦難から贖い出してください。」という思いに変えられています。その中心は自分自身から、神の民へと移っています。

これらのことから、私たちの生活における礼拝と祈りが占める場所について、どのような結論を導くことができるでしょう。この詩篇から4つの結論を導き出したいと思います。一つ目に、私たちは個人的にも教会としても神の導きを必要としており、それゆえに個人的な礼拝にも共同礼拝においても、祈りが重要な部分であるということです。神の栄光とみ言葉と同様、キリストの体として神に直接語り掛ける祈りも私たちの礼拝において最前面あるいはその中心にあります。二つ目に、個人的な礼拝にも共同礼拝においても、告白と悔い改めを中心とした祈りが含まれるべきです。礼拝は私たちを悔い改めに導き、自分たちの罪と救い主の必要を公に告白するものでなくてはなりません。近々、礼拝でそのことをより強調するための変更を加えたいとは思っています。三つ目に、神のみ言葉を宣べ伝えることも含め、礼拝のあらゆる側面が祈りによって守られるべきです。それは、皆さんが必要としているのは「私の真理」ではなく、神の絶対的な真理だからです。私たちは、神以外の誰にも神の栄光を受けてほしいとは思いませんし、神の栄光を祈りを通して求めます。最後に四つ目ですが、私たちの祈りは、個人の生活においても、共同の教会における教会員の生活においても、その必要に対する具体的なものであるべきです。ですから、教会の家族として、そのような必要を公に祈り、それぞれの状況の中において神の働きを待ち望みつつ互いを支えあうことができるようにと祈るのです。これらのどれもが、神の礼拝にランダムに付け加えられる祈りのようには聞こえません。これらの祈りは熟考されたもので、それぞれのが何を成し遂げようとしているのか、また何を目的としているのかについての意図的なものです。礼拝の中での祈りは、礼拝においてそれぞれの事柄がスムーズに進むためだけのものであってはなりません。祈りはミュージシャンがステージを降りる際、あるいは次の歌を歌うまでの時間稼ぎのものではありません。通常、壇上から捧げられる共同の祈りは、私たちの心をひとつにして、ご自身の栄光を示すと同時に、私たちの益とするために、全ての必要を満たすことができる、この宇宙の主権者である神の御前に、私たちの必要を祈るものです。祈りましょう。

Psalm 25 Corporate worship is covered in prayer

Today, I want to look at another Psalm that can teach us something about God primarily, but also about how we worship God in our public worship services. The Psalm we are looking at today is Psalm 25. It is a beautiful poem that is a prayer to God for His leadership in our lives. It is a slightly imperfect acrostic poem. In other words, each line of text in the original Hebrew begins with the next letter of the Hebrew alphabet. It is not a perfect acrostic, because it skips two letters and puts two verses in with the same letter repeated. **But this prayer that requests God's leadership can teach us much about the place of prayer in our lives and in our church as well.** Once again, this Psalm starts out by telling us that the author is David, when it begins ···**Of David**. This time we have no other information about the circumstances surrounding the writing of this Psalm, and the circumstances aren't as important as the content of this prayer. This Psalm does not lend itself well to being broken up, so let's read it in its entirety as we begin.

To you, O Lord, I lift up my soul. 2 O my God, in you I trust; let me not be put to shame; let not my enemies exult over me. 3 Indeed, none who wait for you shall be put to shame; they shall be ashamed who are wantonly treacherous. 4 Make me to know your ways, O Lord; teach me your paths. 5 Lead me in your truth and teach me, for you are the God of my salvation; for you I wait all the day long. 6 Remember your mercy, O Lord, and your steadfast love, for they have been from of old. 7 Remember not the sins of my youth or my transgressions; according to your steadfast love remember me, for the sake of your goodness, O Lord! // 8 Good and upright is the Lord; therefore he instructs sinners in the way. 9 He leads the humble in what is right, and teaches the humble his way. 10 All the paths of the Lord are steadfast love and faithfulness, for those who keep his covenant and his testimonies. 11 For your name's sake, O Lord, pardon my guilt, for it is great. 12 Who is the man who fears the Lord? Him will he instruct in the way that he should choose. 13 His soul shall abide in well-being, and his offspring shall inherit the land. 14 The friendship of the Lord is for those who fear him, and he makes known to them his covenant. // 15 My eyes are ever toward the Lord, for he will pluck my feet out of the net. 16 Turn to me and be gracious to me, for I am lonely and afflicted. 17 The troubles of my heart are enlarged; bring me out of my distresses. 18 Consider my affliction and my trouble, and forgive all my sins. 19 Consider how many are my foes, and with what violent hatred they hate me. 20 Oh, guard my soul, and deliver me! Let me not be put to shame, for I take refuge in you. 21 May integrity and uprightness preserve me, for I wait for you. 22 Redeem Israel, O God, out of all his troubles.

I want you to notice all the different ways that this Psalm asks for God's leadership. Verse 4 says, **4 Make me to know your ways, O Lord; teach me your paths.** Ways and paths are words that describe how we should travel, except that in this case, we are asking God to show us HIS way and HIS path. Then right away in verse 5, we read, **5 Lead me in your truth and teach me.** Here David is specifically asking God for his leadership, but that leadership in God's ways and God's paths is a leading in truth. When we ask for God's leadership, it is a teaching process where we come to understand truth – God's truth. You see, God's ways and paths are the only way to absolute truth in this world. There are lots of different stories and narratives in this world that claim to be "truth." It is popular today to talk about everyone having their own truth. You have "your truth" and I have "my truth." But while "my truth," my understanding of this world may

lead you with some wisdom based on my experience, God's truth is very different. You see, there is "your truth" and "my truth"; but then there is THE TRUTH. And the Real Truth, the only source of Absolute truth is God as revealed in His Word.

Then in verse 12 we also see another reference to God showing us his **way**. This time the leadership is given to the one who "**fears the Lord**." And then there is this incredible statement that comes in verse 14 regarding the one who fears the Lord. It says, **14 The friendship of the Lord is for those who fear him, and he makes known to them his covenant**. Not only does the fear of the Lord bring understanding of God's path, in other words, his leadership, it brings with it his friendship! This is incredible! As we seek his leadership to know his will and way, we actually discover that we have a friend that is truer and better than any friendship we can experience with another human. **Proverbs 18:24 says, A man of many companions may come to ruin, but there is a friend who sticks closer than a brother**. That friend is Jesus. In **John 15:15**, he says to his followers, **15 No longer do I call you servants, for the servant does not know what his master is doing; but I have called you friends, for all that I have heard from my Father I have made known to you**. Our relationship to God the Father is through God the Son, Jesus Christ. When we repent of our sin and seek God's forgiveness, we are adopted into God's family as his son or daughter, and we are made a friend of Jesus himself. But this is based on humbling yourself, repenting of your sin and seeking to follow God's leading, in other words, follow Jesus as lord and Savior.

Repentance of sin should be a primary part of our prayers. Dropping back to Verses 8 and 9, we see that God's "**way**" is taught to both **sinners** and to the **humble**. In other words, out of God's goodness and grace, **God's leading is available to everyone**. Verse 8 begins by pointing out God's grace, "**Good and upright is the Lord**...". This is God's grace at work, to extend that grace by offering to lead even **sinners** to the truth. But unless those sinners take the steps in verse 7 of repenting of sin, in other words becoming **humble** themselves, -which of course is the other group mentioned in verse 8- they will not experience God's grace in the forgiveness of their sin. Verse 7 shows this repentance when it says, **7 Remember not the sins of my youth or my transgressions; according to your steadfast love remember me, for the sake of your goodness, O Lord!** Throughout this prayer, we see a humble dependence on God that is coming from a heart of repentance. Confession and repentance of sin is at the heart of prayer. Remember I said this Psalm is an acrostic poem, but there is another literary device and poetic structure happening here as well that is pointing to the central thought in this prayer coming right in the middle in verse 11. Verse 11 says, **For your name's sake, O Lord, pardon my guilt, for it is great**. Confession is a key component of our prayers.

Without the humility of recognizing our sin before a holy God who is graciously allowing us to come into his presence, then our prayers become self centered, as we begin to lose sight of our absolute need of him. Instead of prayers of intercession based on our need, our prayers can become transactional. In other words... we think that if we pray enough then God answers based on our faith and our earnestness. But that is not the mindset we bring to prayer. **We come to God on the basis of our salvation in Christ, in other words, GRACE**. We come knowing that even in prayer, we come empty handed. We don't have enough faith or enough earnestness in our words and desires to merit God's response to us. Instead prayer of all kinds, praise, confession, making supplication and requests on behalf of physical or other needs, and thanking him for what he gives

us – these are all ways that we seek and pursue God's glory. **Prayer is the pursuit of God's glory.** If you remember, we said the entire goal of our worship service was the glory of God, and prayer is the primary way we seek God's glory. **John 14:13** shows us this truth in how we petition God for needs. **Whatever you ask in my name, this I will do, that the Father may be glorified in the Son.** So, it is not wrong to ask God for things in prayer. In fact it glorifies God and shows the glory of Jesus Christ in our lives. There is a wrong type of asking that is characterized by selfishness and greed. **James 4:3** says, **You ask and do not receive, because you ask wrongly, to spend it on your passions.** But asking God for things that are in accordance with his will brings him glory. And what do we know for certain about his will – that we love and care for each other within the church. Jesus says in **John 13:35**, **By this all people will know that you are my disciples, if you have love for one another.**” And so out of love for each other – in the pursuit of God's glory – we lift up our human needs before the throne of God in prayer.

This sort of petition and bringing needs before God is exactly what we see in verses 16-20 of this Psalm. There is prayer for God's grace to meet his needs of **loneliness** and **affliction** in verse 16. David, the writer of this Psalm knew exactly what it meant to be lonely as he was fleeing from King Saul and felt the rejection of many. He knew what it was to be afflicted as his life was threatened by King Saul. This all brought him great mental suffering. This is what is meant when verse 17 says, the troubles of my heart are enlarged. So, he prays for God to deliver him from this **distress** in verse 17. But even this prayer of deliverance comes with an acknowledgement of his own guilt, not just the guilt of those who are against him. Notice in verse 18 after saying, **Consider my affliction and my trouble**...then he says, **and forgive all my sins.** And ultimately, these requests for God's intervention are not based on any faith that David has, any worthiness on his own merit, but on the relationship he has with God. We see that as verse 20 ends. **20 Oh, guard my soul, and deliver me! Let me not be put to shame, FOR I take refuge in you.** Anyone who says that prayer is more effective or less effective based on our level of faith greatly misunderstands prayer. **Prayer is like ice skating on a frozen lake. One person may just go right out on the ice to the middle of the lake and skate around freely with no concern, while another person may fear the possibility that the lake is not completely frozen enough for skating and very carefully and gingerly approach further and further out onto the lake.** Our faith can be like that – one person is fearless in their trust in God like the person ice skating on the lake without any concern at all. While another person's faith looks like the careful person staying close to the edge because of a fear of falling through the ice. But what is the same no matter whether this is great faith or little faith is the actual thick ice holding both of them up. Our God, like that ice is the source of all blessing and all power. He makes the ultimate determination of what he will do. And its not based on our faith, its based on his sovereign will and omnipotence or attribute of being all-powerful.

So if you are going through a difficult period in your life, where you wonder if God is not hearing you because your faith is weak and your prayers seem to not be answered, let me assure you that God is not answering based on your faith. He is answering you or withholding the answer you would like based on His Sovereign determination of what will best glorify him and bring good to you. But that is so difficult for us to accept, that there is a time of waiting, a time of hoping, a time of trusting in God's grace and goodness even though it is hard to see through the tears. So David ends his prayer on that point in verses 21-22 **21 May integrity and uprightness preserve me, for I wait for**

you. **22 Redeem Israel, O God, out of all his troubles.** He has nowhere else to turn so he simply asks that God's **uprightness and integrity**, in other words, God's righteousness and perfect plan for his glory and our good sustain or **preserve** him, while he continues to WAIT on God's action in this situation. **In *Desiring God* by John Piper, he says, "prayer is the essential activity of waiting for God."** We all have situations in our lives, and together as the church, we have situations in our church that we want to see God's plan unfold for. And too many times we get impatient, and move ahead without praying, or we get frustrated and angry that we don't see the results we want when we want them. Pouring out our hearts to God and taking those needs before his throne in prayer is how we show our heart of waiting on God. It is in those times of prayer that we are reminding ourselves how dependent we are on God. It takes the focus off of us and our need and places it on the character of God and his ability to meet that need, but also his sovereignty over how and when. As we do that, we find ourselves less worried about our personal need and even move to concerns for the needs of others. That's exactly what we see as this Psalm ends. David's focus moves from **"preserve me"** and **"I wait,"** to **Redeem Israel, O God, out of all his troubles,** in verse 22. The focus moves from himself to the people of God.

What does all this lead us to conclude about the place of prayer in our lives and in our worship? There are four conclusions I would draw from this Psalm. **One, we need God's leadership** personally and for our church, therefore prayer is a vital part of our worship personally and corporately. Just as God's glory and God's Word are front and center in our worship, so is prayer as we speak to God directly as the Body of Christ. **Two, our worship both personally and corporately should include focused prayer of confession and repentance.** Our service should lead us to repentance and publicly confess our sin and need of a Savior. I am hoping to make some changes that will emphasize that more in our worship services soon. **Three, we must cover all aspects of our worship in prayer,** including even the proclamation of God's Word, because you do not need "my truth" you need God's absolute truth. We don't want anyone to receive glory except God, and we seek his glory through prayer. **Finally four, our prayers should be specific to needs** in our own lives personally and in the needs in our member's lives corporately. So we seek to publicly lift up those needs as a church family in prayer, to support each other and the body as a whole in our time of waiting on God to see his work in each circumstance. None of this sounds like prayer then can be just randomly tacked on to a service of worship to God. These are prayers that are thought about, that are intentional in what the purpose is for each of them, and what they are trying to accomplish. And the prayers in our worship can never be for the purpose of transitioning from one worship activity to the next. They are not prayed to allow the musicians to move off stage or to provide filler for the next song. They are corporate prayers that are led usually from the pulpit, but with our hearts unified around those prayers as we bring our needs before the Sovereign God of the universe who can meet everyone of those needs in a way that brings him glory and us good. Let's pray